1982. 10

愛鳥教育 NO.8

愛鳥教育研究会

手弁当の時代

(財)日本鳥類保護連盟
松田道生

季節はずれの話題で恐縮ですが、高校野球の熱狂的な盛り上りは、冬の紅白歌合戦と並んで今や夏の国民的な行事として、しっかり根付いた感じです。あれが、教育的にどれだけの効果があるかは、いろいろ議論の分かれるところでしょう。しかし、大変なエネルギーであることは、間違いありません。

もちろん、高校野球が昔から、今のように活発であったわけではないのはご存知でしょう。戦後の混乱の中で若人に夢を、スポーツを通じて人間形成をと考えた人たちが、一握りいたからこそ今のような盛り上りをみせたと言っても良いでしょう。とにかく、人間が食べるものがろくにない時に、よけいに腹のへる運動を奨励したのですから大変な努力がいったでしょう。

今、愛鳥活動も、戦後間もないころの高校野球の境遇と同じだと思います。とにかく、今の世の中、経済優先。いろいろ国内外から批判は受けているものの金がものを言う世の中です。受験戦争の目的も安定した生活＝金持ちを目ざしているのですからたいへんです。そんな中で、自然を大切に。野鳥を守ろうと大声でさけぶことはまだ勇気がいります。

このところアンケートをとったり、先生方と直接話す機会が多くなりました。そんな時、出てくる意見は、愛鳥活動はやりずらい。まず時間がない。指導者がいない。支持がえられない。教材がない。だからできないという苦情が異口同音に出て来ます。でも、今私たちがとりまかれている状況は、戦後の高野連のスタッフと同じです。ですから彼らが手づくりのバットやグローブで、時間をやりくりし同僚を説得し、普及につとめたと同じように手弁当で、活動しなくてはならない時です。

いわば、我々はパイオニアで、その苦労をしているわけです。誰も何もあたえてはくれません。自分たちで作らなくては、何も進歩するわけはありません。今、あるのは遠大な目的と手弁当だけです。

NO.8 愛鳥教育
1982. 10

目　次

巻頭言・手弁当の時代――――松田道生・2
夏季研修会報告・野鳥の豊庫御岳山で――― 4
懇談会から――――――石橋寿春・5
講演・御岳山の野鳥――――田村活三・5
まず25種の野鳥――――柳沢紀夫・8
発表・戸倉小学校――――梅木　登・10
豊岡中学校――――豊田昌利・11
愛鳥講座
ツバメの調査――――――下田澄子・12
札幌会員の集い――――――柳沢信雄・18
ビルタップ・ついに完成――――渡辺康輔・19
冬の研修会のお知らせ――――――19

レイアウト・関口　尚

愛鳥教育　No.8

昭和57年10月10日

編集人　松田道生
発行人　田村活三

発行所　愛鳥教育研究会
住所　〒150東京都渋谷区宇田川町37－10
渋谷レジデンシャルオフィス405
（財）日本鳥類保護連盟内
電話　東京03（465）8601
郵便振替　東京2－92041
印刷　弘林美術印刷株式会社

夏季研修会報告

野鳥の豊庫・御岳山で

2年目の夏季研修会が、東京都の御岳山で8月10〜11日の両日開催されました。今年の夏は、悪天候にみまわれ、各行事とも悪戦苦闘でしたが、幸いして、この研修会は、講演中に雷雨にみまわれた他、探鳥会などは晴天に恵まれ、一同日頃の心がけのよさを確認しあいました。

御岳山周辺は、先の台風10号の爪跡のガケくずれや、倒木がずい所にみられ、痛々しい風影もみられました。スケジュールは、1日目午後からの、田村会長、柳沢常務理事の講演、夜の懇談会2日目の早朝探鳥会、戸倉小学校、豊岡中学校の発表と、短い時間ながら、内身の濃いものでした。

とにかく、自然の中で実際に体験しながら、今後の愛鳥教育の発展のために学び合うのですから有意義でないはずはありません。

くわしい報告は次のページから参加されなかった会員の方々のためにもくわしく記載しました。

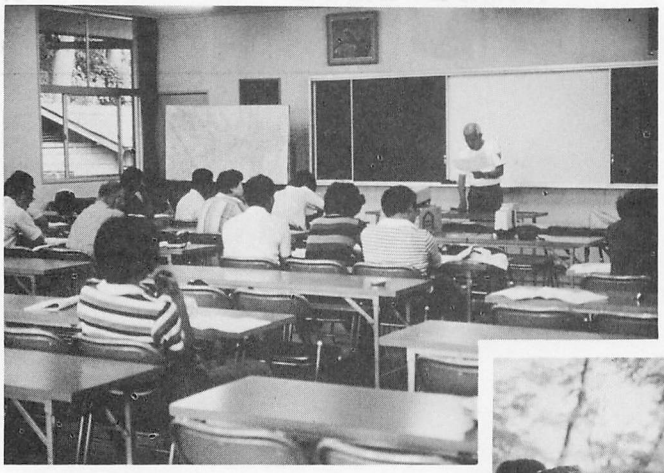
○昭和57年夏期研修会参加者（22名）

角田節子、石橋寿春、大沢智則、瀬尾真光、宮武由美子、松本千鶴子、新井健、鶴田徳太郎、山崎発喜、立松美枝、江袋島吉、伊藤元良、下田澄子、梅本登、豊田昌利、田村活三、柳沢紀夫、松田道生、大平早苗、宗形康、早崎辿、津森義則。（順不同）

○早朝探鳥会で記録された鳥（昭和57年6月11日）

コジュケイ	ヒヨドリ	ヤマガラ
キジバト	ミソサザイ	シジュウカラ
アオバト	トラツグミ	ゴジュウカラ
ツツドリ	ウグイス	メジロ
アオゲラ	オオルリ	ホオジロ
コゲラ	コサメビタキ	イカル
イワツバメ	エナガ	カケス
ツバメ	コガラ	ハシブトガラス
キセキレイ	ヒガラ	ハシボソガラス

※この後・サシバも見られた。



田村会長の御岳山の鳥についての講演

ねむい目をこすりながらの早朝探鳥会

懇談会から

世田谷区立船橋小学校
石橋　寿春

懇談会風景

夕食後、お酒もちょっぴり入って、いつもながらの和気あいあいとした雰囲気で始まる。19才の荒井君（港区）から、田村会長（74才）まで、連盟の会員の方から、先生の方々まで、当然、若い美しい女性も含めて。

さっそく話題は、山崎氏（世田谷区）鶴田氏(渋谷区）のお持ちの傘を利用した集音器になる。市販のものは高価なので自作したとのこと。作り方から、使い方までていねいに説明があり、質問も多くでる。性能もなかなかとのこと。

クラブ活動ではどのようにやっているだろうか。例えば、死んだ野鳥や、落ちていた羽で羽も図鑑を作っているという話が出たが、死体の保存にはホルマリンやアルコールの他に、後に保存するなら塩づけの方法もあるという。羽が落ちていたら大事にしよう。（くわしくは「自然の教室」・日本鳥類保護連盟発行）

雨の日のクラブ活動に苦労しているという話になった。図鑑を見るとか、スライドを見るとかの活動になってしまいがちだが、やはり、それぞれのクラブ員が自分の研究テーマを持っているかが問題になるという。その時間は計画を練ったり、研究の整理をしたりあるいは新聞作りをすることにあてている。

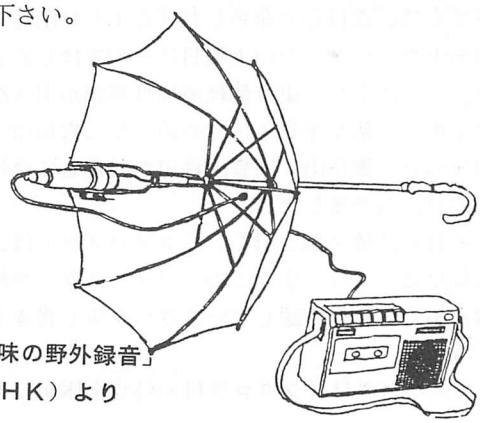
また、自分が見た鳥の特徴を書きこんで、自分の図鑑を作るなど、クラブ活動全体に計画性が必要なのではないだろうか（梅本氏　東京都戸倉）

学校にヒナが持ちこまれることが多いのだが、どのようにしたら？　連盟の場合は基本的に、生態的に説明して放すとか、あるいは、けがをしている場合は都道府県庁の自然保護課の鳥獣保護係にとどけさせるなどの指導をしているという。といっても、やはりけがをしている場合や弱っている場合は心情的にも保護をしたくなる。さてその場合、翼のけがの場合は致命的なのだそうだが、まず、水を飲ます。食べさせる、暖めることだそうである。餌では、すり餌などの他に、犬猫用のペットフード（完全食品である。）や、水鳥の場合魚のソーセージなどが良い。また、体がぬれていたら、まずふいてやることで、発泡スチロールの箱に入れて保温してやることだそうである。

懇談会での話の、ほんの一部を簡単にまとめてみたのですが、他にも貴重なご意見がたくさん出ました。この会に出るだけでも、来たかいがあると思いますよ。

集音器のつくり方

懇談会で鶴田さんと山崎さんが紹介していただいた集音器は、「自然のアルバム」でおなじみの中坪礼治さんが考案したもの。誰にでも簡単に作ることができますし、効果はバツグン。それに何よりも安い。メカ好きの先生方チャレンジして下さい。――まず、500円程度のビニール製の傘を手に入れ、つけ根の針金をはずします。次に柄をぬいて、逆にさし込み、元どおり針金で固定します。次にマイクホルダー。要するに傘の中心にマイクがくれば良いのです。たとえば太めの針金でつかみ込むようにして、マイクは、ガス管をとめる金具の大きいもので固定するなど各自のアイデアをもり込んで下さい。ポイントはマイクの位置。モニターをききながら、効果の大きいところを捜して下さい。


「趣味の野外録音」（NHK）より

御岳山の野鳥

愛鳥教育研究会会長
田村　活三

愛鳥教育ならびに一般参加の皆さま、昨夏に続いて今年も遠路この御岳山においで下さって誠にありがとうございました。御岳山はほかにも登山信仰的な所ですからここでは武州御岳と昔は分けました。いやここでも御嶽神社があり２千年の歴史をもち関八州御嶽講と称して毎年農をうらなう神事が行なわれそれを営むのが「御師の家」と言って皆神主さんです。旅館民宿としてここ御岳に今24軒あります。

先般も初めに申し上げましたが近年においては終戦の年昭和20年12月31日中西悟堂先生が現、秋川市二ノ宮に再疎開し、お一人で都下の山を探鳥したり、たのまれて講演をしたり、執筆したことから初まります。

すぐに野鳥の会秋川支部が結成され、「どうやら御岳山に佛法僧がいるらしい、先生に一つ聴いてもらいましょう」と、これは確かに佛法僧だとなり初めは先生が知人や、支部の人を誘って始めたのが「佛法僧をきく会」。何としても御岳の鳥を語る時、この会を語らないわけにはいきません。

佛法僧をきく会

終戦の昭和20年ＧＨＱ天然資源局オースチン博士のサゼッションによって山階先生が日本鳥類保護連盟をお始めになったり、愛鳥の日を４月10日に定めたりしたのが昭和21年からでしたそうです。

この佛法僧をきく会も始めは先生個人が人を誘ってきて、ご自身で命名した「こまどり山荘」でバードウィークの中の土曜日に一泊ではじめました。すぐにこれを東京都経済局林務課が引き次いで主催し、都が予算不足でやめてから青梅市、同観光協会、御岳山、同登山鉄道が共催して今年第35回目になりました。

それでは佛法僧と鳴く、「コノハズク」は、どんな鳥でしょう。またこの「コノハズク」が佛法僧と鳴くことを確認したいきさつを少し書きましょう。

コノハズクは、フクロウ科の鳥で全体が、茶色っぽく腹面は淡く、全面に虫喰状の班点があり大きさは大人の拳大で、この科では最も小型です。これが有名なブッポウソー、またはオットットー、カッキートーン、と聞き倣す声の佛法僧です。

ちょうど渡来の時期や棲む所、昼間姿を現す、ブッポウソウ科の「ブッポウソウ」と、昼間は大杉などの樹の洞にひそみ夜だけ活動するコノハズクと混同されて千百余年間弘法大師の「佛法僧は三法の声を一つの鳥にきく」の語にある通り誤認したままで現代までまいりました。

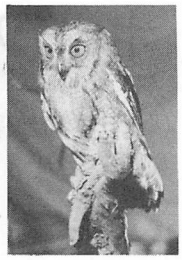
昭和６～７年ころより「どうもおかしい、ブッポーソーと鳴くのはコノハズクにちがいない」「カッキトン鳥はコノハズクらしい」と、指摘されだし議論が活発になりました。

「ともかく鳥のいかんに関わらず佛法僧と鳴く声を全国に聞かせよう」と、名古屋放送局で昭和10年６月７日、８日午後０時55分愛知県の鳳来寺山から全国に放送されたのでした。お年を召した方ならどなたもお聞きになられました。これがセンセーションを起こさないでいられましょうか。「ああ、あれなら聞いた－あれはカキトン鳥だ－あれなら飼っている。」という人まで現れ黒田長礼博士が飼鳥を借りて確認したり12日の午前５時10分山梨県の、故中村幸雄さんと言う方が御坂峠の栃の木に止って５声鳴いたのを打ち落し証拠をあげて学界に提出し急転直下昭和10年６月15日の鳥学界例会で「鳥学上の佛法僧と、ブッポーソーと鳴く鳥は全く別科別属の鳥である」と、断定したというわけです。

小学校の国語教科書多分５年生用だったと思いますが、この顚末を載せて普及をはかりました。

なおこの御岳山では、神社ですから－ゴキト－と聞きなして「ご祈禱鳥」と申しています。

この山に毎年２～３番、昭和26年は５月３日、27年は４月19日、28年４月30日、30年４月25日、31年４月27日に鳴きはじめました。ただし昭和41年頃の台風で大木の倒木がありここ幾年かきかれませんでした。



姿のブッポウソウ(左)
声のブッポウソウことコノハズク(右)

姿のブッポウソウ

上記のいきさつから姿の佛法僧と言われ、全身鮮かな青色で嘴と脚が赤く、体形は、からすに似てからすより少し小さい。明らかに南方から渡ってきた夏鳥で、好んで木から木へ滑空する。飛翔の時両翼をひろげると表裏に淡色の百円玉位の紋が見える。鳴き声はゲ、ガ、ガと悪い声である。

ミソサザイ

私は御岳を代表する鳥では「ミソサザイ」を次にあげたい。ミソサザイ科のミソサザイは、こげ茶色の全身一色、小さな大変動作の敏捷な鳥で、止っている時、尾をピーピーと縦に振る。御岳には数も多く好んで水辺に棲む。石垣や岩の間の入口から中深く、苔をもって精巧なそして体に似合わない大きな巣を造る。巣引きも早春２月には始める。谷川のほとりに棲み、築石の角、黒壁の上、草屋根の破風などに嘴を空に向けてピリピリピリピリと大きな高音を張り上げて囀る光景は誠に精悍で、ここ御岳山の名物だと思う。

今の世では、自然の物を飼うと言うことは絶対してはならないが、昔飼鳥の盛んだったころこのミソサザイだけは、ものの一年飼えないのが一般だったそうであるが、一人名人に聞いた話上餌を５分以上強くするのだと聞いたことがある。極寒の中で、余程自分の強い餌をたべているのだなと痛感しています。

日本三名鳥・コマドリ，オオルリ，ウグイス

コマドリはツグミ亜科の夏鳥で全身栗毛色、この御岳から奥深い山の水辺を好み、ヒン、カラ・カラと強く鳴く、オオルリはヒタキ亜科の夏鳥で、色は群青色（瑠璃色）、杉・桧其の他、大木の天辺に止ってピー・ピールリ・ポピーリ・ピールピールピールとテリトリーを張って１日中シーズンには囀っています。

ウグイスは、ウグイス科の漂鳥でこの山にはどこにでも、特に夏の谷渡りも盛んです。

ホトトギスの仲間

「ツツドリ」「ジュウイチ」「カッコウ」「ホトトギス」御岳にはツツドリが４月10日ごろ、わらび採りの頃、－ポ・ポ・ポ・ポ、トートートツキーと言うように聞きなします。４月下旬27～28日ごろに、ジュウイチが来ます。夜または暗い森陰でジヒシン又はジュウイチと細い声で鳴きますところから、十一、或は慈悲心鳥などと言われました。５月に入って間もなく来るのが、カッコウ。４種の中で一番で鳴き声もよく知られているのるのではぶきます。

５月10日から中ばころにくるのがホトトギスです。ホンゾンカケタカ・ホッチョキッチョ・テッペンカケタカなど聞きなしますが、早口言葉に言う、東京特許許可局はほんとによく似ていますね、言ってみて下さい。

５月のシーズンには御岳ではどこでも聞ける代表的の大型鳥です。この４種は小さな鳥の巣に卵を産みこんで育ててもらう托卵の習性があります。

ツグミの仲間

ツグミ亜科の夏鳥「クロツグミ」「マミジロ」同じく漂鳥の「ルリビタキ」「アカハラ」など山の中で聞くと男性的で勇壮で何とも言えませんね。

御岳ウォッチングの醍醐味を感じます。

私は今月の歌誌に

流行色黄と黒とで装ひたる
　　黄びたき汝はジャズシンガーぞ

投稿して載せてもらいました。「キビタキ」の名まえだけ上げさせていただきましょう。

ともかくもこの御岳山では年間を通じ40科 134種類の鳥が見られます。

まず25種の野鳥

(財)日本鳥類保護連盟主管
柳沢　紀夫

学校教育の場で、鳥についてのことは取り上げにくい、という話はよくうかがいます。それは先生が鳥については知らないために、児童に教えられない、ということのようで、愛鳥教育をすすめていくための一つのネックになっているように思います。そこで、まずおぼえなければならない鳥は何種類ほどで、どうやって名前をおぼえればよいか、について述べてみましょう。

現在いわれている〝鳥をおぼえる方法〟例えば日本鳥類保護連盟の「野鳥図鑑」では、その使い方のところで、

〝野外で鳥を見分けるには〟と題して

心がまえ　漢字をおぼえるのにまず当用漢字から初めるように、普通種に注目し、それをまずおぼえて……。

1. 大きさ
2. 形と姿勢
3. 色彩
4. 動作
5. 飛び方
6. 歩き方
7. 鳴き声
8. 場所
9. 時期
10. 記録

こうした点に留意をして、鳥を見て下さい、と記しています。

それに付け加えるならば、鳥を見る時にチェックをする項目を決めておき、鳥を見ている最中にできるだけ短時間のうちにそれらをチェックしていくとよいでしょう。嘴の長さは？　嘴の色は？　頭の色は？　目の色は？　たたんだ翼の先は尾よりも出ているか？……などなど。それから見聞きしたことはできるだけメモにしておくことですが、その上スケッチをしておくと鳥をよくおぼえられます。

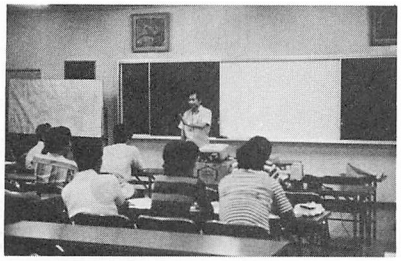
この方法を身につけていただくのが、鳥をおぼえる（識別する）ためのオーソドックスな道だと思います。この方法が身につけば、世界中どこででも新しい鳥に出会っても大丈夫なのですが、初心者の方々にとっては、どれもこれも出会った鳥にこの方法でつきあうのは、重荷に思うかも知れませんが、やってみるとさほどのことはありません。木に止ってじっとしている鳥を見たら、はじめのうちはチェック項目を時間をかけてチェックしていけばよいのですから……。

おぼえ方、名前の知り方はそれでよいのですが、どの鳥をおぼえておいたらよいか、ということを次にお話したいと思います。

右の表を見て下さい。これは環境庁からの委託事業として日本鳥類保護連盟が全国で実施をしている定点調査（昭和42年から毎年行なっている）の結果を集計したものの一部です。出現率というのは、全国の調査地点の中で、何％の地点でその鳥が見られたか、ということです。優占度というのは、全国の調査地点で数えられた鳥の総個体数のうち、その種が何％を占めていたか、ということです。出現率80％ならば全調査地の８割から記録があったということですし、優占度８％ということは、数えられた総個体数の８％を占めているということです。

全国に100地点、陸上の鳥の調査地79地点を、特に場所を指定せず、ランダムに選んだ地点で、距離３㎞、巾50ｍの範囲を調査していますので、ここに表われた種類や数字は、日本全体の平均的なものと考えていただいてよいでしょう。

昭和56年度の記録をみると、山野の鳥の調査地で、１地点平均、夏期19.2種、冬期19.9種が記録されています。だいたい19～20種類が３㎞の間に見ることができることになります。個体数では１地点あたり平均、夏期で91.4羽、冬期で135.8羽がみられています。夏期よりも冬期の方が個体数



が多いのは、例年の傾向です。冬期には群をつくる種類が増えるからでしょうか。日本の平均的な自然は、1羽ずつなら何とかくらしていけますが、繁殖のために沢山の餌を必要とする時期にそれだけの生産力がない、といった程度の自然なのでしょう。

出現率の上位のものは、北海道から沖縄までの日本におしなべて棲んでいる鳥、ということになります。このどこにでもいる鳥、どこででも出会うことの多い鳥をまずおぼえてしまいましょう。夏期10種、冬期10種、両方あわせて13種になりますね。

次に優占度の上位のものをおぼえて下さい。夏期の場合、上位10種で計67.4％、冬期は65.3％にものぼります。つまり日本の平均的な自然で見られる鳥の3分の2まではこの10種を知っていればわかる、ということです。夏、冬で13種です。出現率上位のものと合わせても〝16種〟でしかありません。これだけ知っていれば、日本中で見かける鳥の3分の2ほどは名前がわかるということです。

55年度の調査では、これらの鳥のほかにメジロ、トビなどが9～10位あたりに顔を出しています。その他、関東、甲信越地方ではオナガはよく見られる鳥ですし、西日本ではコシアカツバメ、ミヤマホオジロはよく見られる鳥です。それに学校の近くに川があるとか、池があるとならば、そこに来る鳥の種類も違ったものが加わります。というようなことを考慮にいれて、学校周辺で見られる鳥25種類程度をおぼえてしまえば、一応の指導は可能であろうと思います。

日本産鳥類の全種類をおぼえなければならないか、ということではなく、その20分の1をまずおぼえればよい、となれば取組みに対しての意気込みが違ってくると思うのですが、いかがでしょうか。

昭和55年度の調査

夏	優占度上位	(%)	出現率	(%)
1	スズメ	20.8	ヒヨドリ	87.6
2	ヒヨドリ	10.8	ホオジロ	76.5
3	ホオジロ	7.5	キジバト	70.6
4	ツバメ	7.3	ウグイス	65.4
5	ウグイス	5.5	スズメ	62.8
6	ムクドリ	4.7	ツバメ	58.2
7	シジュウカラ	4.5	シジュウカラ	56.2
8	キジバト	3.4	ハシボソガラス	50.3
9	メジロ	3.2	カワラヒワ	44.4
10	ハシボソガラス	2.8	トビ	36.6

昭和56年度の調査

優占度上位（％）					
	夏			冬	
1	スズメ	19.7	1	スズメ	17.4
2	ヒヨドリ	10.4	2	ヒヨドリ	8.9
3	ホオジロ	7.6	3	カシラダカ	8.4
4	ツバメ	6.5	4	ムクドリ	7.6
5	ムクドリ	5.5	5	ホオジロ	6.8
6	ウグイス	5.2	6	エナガ	3.9
7	シジュウカラ	4.1	7	シジュウカラ	3.5
8	キジバト	3.2	8	キジバト	3.3
9	ハシボソガラス	2.7	9	ツグミ	3.3
10	エナガ	2.5	10	アオジ	2.2
	14395羽	67.4		20737羽	65.3

出現率上位（％）					
	夏			冬	
1	ヒヨドリ	87.0	1	ヒヨドリ	86.1
2	ホオジロ	80.5	2	ホオジロ	74.2
3	ウグイス	65.6	3	キジバト	66.9
4	ツバメ	61.7	4	シジュウカラ	61.6
5	ハシボソガラス	61.7	5	ツグミ	60.3
6	キジバト	61.0	6	スズメ	57.6
7	スズメ	57.8	7	ウグイス	49.7
8	シジュウカラ	55.8	8	エナガ	47.0
9	カワラヒワ	46.1	9	ハシボソガラス	45.7
10	ハシブトガラス	43.5	10	モズ	45.0

愛鳥のはばたき

東京都五日市町立戸倉小学校
梅本　登

戸倉小学校は、山梨県に続く東京都西部山地の入口にあり、学区の総面積は14.6キロ平方メートル、そのうち９割は林野でその大部分はスギ・ヒノキなどの人工林となっています。

昭和42年、東京都より愛鳥モデル校の指定を受けて以来、「明るく思いやりのある子」という学校の教育目標の具体化の場面として、愛鳥活動を全校活動へと深めてきました。すなわち、愛鳥活動を通して自然の美しさ、厳しさ、かわいらしさ、残酷さを、事実として生徒たちにつかませるということです。

実際の愛鳥活動の内容は、大別して「保護活動」と「観察活動」の２つに分けられます。その２つの活動がそれぞれ別個に進めているのではなく、からみ合わせながら進めているのです。それぞれの活動内容の詳細を下記に挙げます。

ア　保護活動
- 巣箱作り、巣箱かけ（４年生以上）
- 愛鳥講座、探鳥会の実施（外部講師を招いて、野鳥に対する認識を高める）
- 愛鳥ポスターの製作
- 給餌活動、野鳥誘致園の清掃管理
- 傷病鳥獣の直接保護

イ　観察活動
- 巣箱の構造について
- 産卵数、育すうについて
- 野鳥の色、明度に対する反応について
- 戸倉地区の野鳥の分布について
- シジュウカラなどの食性について
- 観察カードによる観察

どちらの活動も地域の人々の協力があってこそできるものなのです。双眼鏡30台を寄附していただいたり、巣箱の材料などをいただいたりしました。

以上の活動は従来、児童会の１組織である野鳥保護委員会が中心になって行なってきたのですが、それをもっと深く、広くするためにと、「はばたきの時間」として土曜日の１単位時間を利用し、月３単位時間ずつ、教育課程に位置づけ活動を進めることにしました。もちろん、「明るく思いやりのある子」という教育目標の具体化のための活動です。

「はばたきの時間」は理科の指導要領に準じ、活動をはっきりさせるために各学年毎に活動の目標をしっかりとかかげています。

- １年～学校周囲の探鳥を通じて、身近な野鳥に接して名前を覚える。
- ２年～身近な野鳥に接して、飛び方、歩き方などやや特徴的に見る。
- ３年～身近な野鳥に接して、親しみながら他の動植物、季節との大きな関かわりを知る。
- ４年～シジュウカラ、ツバメなどの身近な野鳥をフィールドとして継続的に調べ、成長には段階があること、生命は連続していることなどを認識させる。
- ５、６年～野鳥は環境や他の生物と互いに影響しあって生活していることを理解させる。

以上のような活動を通して、自然保護の精神、考え方を理解し、深めようとするものです。

愛鳥活動は教育目標の具体化として行っていますから、裏づけがなくてはなりません。教師が深い認識を持ち、１時間１時間を意図的に運営していく必要があります。それらのことを実践していく上での今後の課題はいろいろあります。

- 各学年の内容を検討し、素材・教材の整理、選択。
- 指導者の研修。担任が直接指導に当り、理科学習の手法を用いてやれる程度のこと。
- 資料・情報の提供と整理。
- 授業に必要な計画立案に対し、助言できるような体制をとること。
- 活動の記録を残すようにして、野鳥コーナーの活用を図り、児童の意欲をもり上げたい。
- 野鳥保護委員会の活動は、全校児童の意欲を高めるようにする。愛鳥だよりの発行を確実にする。

教師が意図的に取り組んだことは、児童も意欲をもって取り組みます。今後も、そのことを忘れずに深める努力を続けていきたいと考えています。

葦毛の保護活動

愛知県豊橋市立豊岡中学校
豊田　昌利

私たちの学校は、豊橋市の東部に位置し、校区は西の市街地、中央部の市街化地域、東部の水田地域、東端の静岡県との県境にある弓張山系などの山々まで広く変化に富んだ面積を有しています。

生徒会は20年前から青少年赤十字（ＪＰＣ）に加盟し、全校生徒が活動に参加しています。その第一の努力目標である「奉仕」を達成するためにＶＳ（ボランティア・サービス）活動を実践してきました。

昭和47年の校内話し方大会で１人の女子生徒が「葦毛（いもう）（校区の東にある『東海の尾瀬』と呼ばれる湿原地帯）は語る」という話をして以来、多くの生徒、生徒会の執行部が心を動かされ、ＶＳ活動から自然に目を向けた活動に力をそそぐようになりました。同年５月に葦毛湿原の大掃除となりました。６月に第２回葦毛湿原ＶＳ活動を行った後、生徒会下部組織として「葦毛湿原・岩崎自然歩道パトロール隊」を結成し、パトロールと奉仕活動を行ってきました。

野鳥保護活動は国有林の松林の松喰虫の発生から始まりました。この松喰虫を餌としている野鳥を保護することが松を守ることだと考えたのです。

私たちの学校の野鳥保護活動は、生徒会が中心となってやっています。自然保護の心を芽ばえさせ、さらに実践できることを究極の目的として、その一手段である野鳥保護の目的は①あなたの心に「鳥の保護区」を②野鳥と友だちになろう　の２つです。この目的を遂行するための４つの努力実践目標をかかげています。

①愛鳥の心を育てる
②野鳥の安心して生活できる良い環境を守る。
③野鳥を学ぶ
④愛鳥の心を広く知らせる。

具体的な活動としては48年12月より巣箱づくりを始めました。これらの活動で野鳥に特に興味を持った者が、51年４月皿井先生を中心に「野鳥クラブ」を発足しました。パトロール隊と野鳥クラブが共同で営巣チェックや給餌活動を行ってきました。また52年からは、カラ類のなわばりの範囲を研究し、適正な巣箱かけに努力しました。自然のバランスを考え、巣箱かけは慎重にやっています。それが真の自然保護だと思うのです。

皿井先生が転任された後、鈴木清先生を中心に56年４月からは野鳥クラブを一歩広げた湿原クラブが発足しました。野鳥保護はもちろん、自然全般についての保護活動をふまえた実践を目指して葦毛そのものを学習しています。

本年度からは「湿原に親しむ部（湿原部）」として葦毛の学習をしています。同時に、湿原入口の案内板に掲示される「葦毛の自然」の製作、機関誌「葦毛の自然を見つめて」の毎週の発行や、校内設置の野鳥コーナーや湿原コーナーの充実化、パトロール隊の活動状況を写真入りで全校生徒に訴えたりしています。また、「葦毛湿原は教材の豊庫」ということから、学習教材としても積極的に取り入れています。

一人でも多くの生徒に葦毛の自然を知ってもらうために、校内新聞「葦毛のうた」を毎月１回発行し、葦毛の四季の自然を知らせ、自然保護の大切さを訴えてきました。50年３月には湿原入口に「案内板」を設置し、本年７月には来湿者のための「しおり」も設置しました。来湿者に自然を愛する心が芽ばえてくれるのを願っているのです。

この活動から得たことは、自然を愛する人が多くなったこと、いくつかの輪が重なって自然保護が進められていく、ということです。

問題点もあります。54年２月に愛鳥モデル校に指定されましたが、モデル校としての生徒の意識が薄らいできてしまったようです。全生徒が周囲の鳥10数種は詳しく言えるようにしたいものです。また、部活動中心ではなく、生徒会執行部と生徒全体でどのように働きかければよいか？生徒たちに再還元するにはどうしたらよいか？などです。

しかし、大空を、林の中を飛びまわる野鳥たちの中には私たちの巣箱で育ったものも、私たちの餌で元気を取り戻したものもいるかもしれません。そんな中で、今後も楽しく活動を続けて行きたいと思っています。

愛鳥講座／ツバメの調査

愛鳥教育研究会常務理事
下田　澄子

愛鳥教育講座について

愛鳥教育研究会も発足以来２年半を経過しました。総会、研修会などについては、そのつど機関誌「愛鳥教育」に、その実施状況を報告していませが、常務理事会では毎回「全国広範囲の会員の方々に対して、どのようにすることがこの会として最も大切なことなのか」ということが課題になっています。そしてとにかく発会当初「お互いに一堂に多数が集まれない情況があるので機関誌を中心に実り多いものにしよう。」と決め、このことを特に本年度は重点的に考えていくことにしました。

その結果、会員数がまだ十分でなく、通信費にかなりの額がさかれてしまう会費の現状では誠に苦しいことなのですが、今のままでは、この機関誌「愛鳥教育」は会員にとって、それほど魅力的なハンドブックになっていないという反省がでました。その結果、増頁を考え、内容を、従来のような報告の上にさらに、愛鳥活動を行うための参考資料を「愛鳥講座」という形で毎号掲載することにしました。

なおこの内容ですが、しばらくは全国鳥獣保護実績大会で、入賞した研究発表内容や、連盟の方々等の指導の手引き、他から本会や連盟に寄せられたり、あるいは入手した研究内容などを、機関紙全体の枚数、紙面の割り振り等を考慮しながら、概要、１部抜粋など編集させていただき（このことについては、原稿提供者に連絡し許可を得て後行います。）発表したいという方針です。

将来は、会員相互の研究発表の場にしたいと思いますので、提案の形で、自由投稿していただければなおありがたいことです。また読後、感想、ご意見、その研究についての共通課題、ご経験、お気づきのことなど、そのつどおよせ下されば、次号にのせていくなどできたら本当の意味での機関紙となり得ることでしょう。また「このこともあるから」と言って会員の方々による会員募集も可能になるのではと期待しております。この件については、一層みなさまのご協力のほどをお願いいたします。

なお、８月下旬、北海道札幌地区に当会支部が結成されるとの通知がございました。全国各地で、支部が結成の動きもあり、愛鳥教育が盛んになり、自然愛鳥の思想が、次代をになう子どもたちに浸透し、豊かな人間性育成の一翼をになうことができればと、切望しております。なおこの頁について、編集等担当は、下田が致しますので、何かとご叱正の程をお願いします。

富山県のツバメの調査

今回は、富山県・富山県教育委員会から提供されている「ツバメの調査　10周年記念」という冊子から、紙面の都合上１部カット等編集させて頂きその研究内容をお知らせします。

ツバメの調査は、各地、各校で行われ、実績大会に発表されたり、愛鳥作文コンクールなどでも取り上げられることが多いようです。

ツバメは日本中広範囲に見ることができます。はるばる南の国から春がやってきて、人家に営巣し、ひなを育て、秋再び帰って行く一連の営み、その姿はまさに風物誌であり、心暖まる存在です。したがって子どもたちが、野鳥に親しもうとする時、第一に、極めて自然にこのツバメにアタックするということは、当然であり、ほほえましいことであり、自然保護思想を身につける第１歩として、まことにふさわしい対象と言えましょう。

ただ、そこでどんな風に親しんでいくのかということになりますが、まことに千差万別で、すぐにその活動が行きどまってしまって単なる風物誌としてながめるに終るということもないことではありません。そんな意味からもこのご紹介する内容は、いろいろの示唆を与え、今後のみなさまのご指導、活動に、多くの具体例を提供してくださる優れたものと考え、掲載させていただくことにしました。

まえがき

緑と鳥と水に潤われた富山県、青田に飛び交うツバメ。

これは、古来より富山平野の風情であり、美しい自然でもありました。この人とツバメとの触れあいをさぐるため、小学生の協力により、ツバメの調査がなされて、今年で10年目を迎えました。ここにそのデーターを取りまとめ表わすことができましたことは、野鳥保護のみならず、環境指標としても貴重な資料となるものと確信します。

調査初年度の豆調査員も今は、22才の社会人に成長されています。多くの県民が児童のときに一度はこのような自然観察をし、鳥と接する機会を持つことは、大変に有意義なことと考えます。

この小冊子が、私たちの住みよい環境を守り、緑を作るため、またやさしい保護の手がツバメにさしのべられるためにも、学校や職場に活用されることを期待します。

児童作文／ツバメの調査をして

砺波市立栴檀野小学校　6年　土田陽一

今年で二回目のツバメの調査をしました。「どの家に、ツバメが何羽きてるかな。」「新しい巣、いくつあるんだろう。」などと話し合いながら一けん一けんまわるのはとても楽しいです。

ぼくの家へは毎年、絶対といってよいほどツバメがきます。玄関に巣があって、ふんを落していくので、新聞紙がしいてあります。とりかえるのはぼくの役目で、すこしだるいですが、いつも来てくれるツバメのためだと思って、きれいにとりかえてやります。親のツバメは一生けんめいえさをはこんで来てひなを育てます。そしてひなは飛べるようになると巣立っていきます。

ぼくは不思議だなと思うことがあります。こんな幼い時に飛びたったひなが、どうしておぼえていて、次の年にはまたやって来られるのだろうか、人間だったらとてもこんなふうにはいかないと思います。

今年のツバメの調査で去年とちがうところは、ツバメの来ている家にシールをはったことです。調べてまわっている中に、よくこんな家に来ているな、と思う家もあれば、来ていそうな家に来ていなかったり、そんな時はがっくりきます。

ぼくたちツバメの調査は、砺波みどり少年団員である5・6年生がしています。ぼくはもう卒業するので来年からはできません。でも自分の家にくるツバメだけでも大切にし、今まで通り、ちゃんと世話をして、ツバメが少しでも住みやすいようにしてやりたいて思っています。

（砺波市立栴檀野小学校は昭和55年度全国鳥獣保護実績発表大会で、「環境庁自然保護局長賞」を受賞しています。）

註　字数を減らすため、以下「であります」調の文体を「である」の形に変えました。

ツバメのなかま

日本に渡来するツバメは、ツバメ科のツバメ、リュウキュウツバメ、コシアカツバメ、アマツバメ科のアマツバメ、ハリオアマツバメなどである。

この中富山県には、平野部で、ツバメ、コシアカツバメ、高山にかけて、イワツバメ、アマツバメ、ハリオアマツバメが渡来するが、近年イワツバメの営巣の下降現象がみられる。

このため、ツバメの調査では、ツバメ、コシアカツバメ、イワツバメの3種の識別が必要となった。

(1)　ツバメ　*Hirundo rustica*

全長170㎝、体はスズメほどの大きさであるが、翼や尾は発達して長い。頭上背面は、光沢のある藍黒色、下面は白色、額と喉は赤褐色、胸には細い黒帯がある。性別は尾の長さで推定することができ、オスの尾長は70～100㎜、メスの尾長は70～85㎜である。

営巣場所は主に木造建築物で、人の出入りする建物に限られ、人工の営巣もよく利用する。

巣は屋内および屋外にもみられ、巣材は泥とわらなどが主で、椀形の巣を作る。

県下には、早いものは3月中旬、大半は3月下旬から4月上旬に渡来し、10月にはほとんど渡去する。

(2) コシアカツバメ　*Hirundo daurica*

全長185㎜、ツバメより少し大きく、頭上、脊、翼、尾とも藍黒色、下面は淡褐色で、褐色の　班が一面にある。名前の通り腰の部分は赤褐色が顕著である。

高層建築物（コンクリート建物）に集団で営巣することが多く、巣は、トックリを横にしたような型である。

ツバメよりもやや遅れて渡来しやや遅れて渡去する。

(3) イワツバメ　*Delichon urbica*

全長145㎜、ツバメより小さい。特に尾が短燕尾ではない。上面は黒色で腰の部分は白色が顕著、下面は白色。

山地の断崖に営巣するのが普通であったが、近年は立山の高原ホテルや大観峰の駅舎などの大きな建物や、山麓部近くの建物まで生息域を広げている。県下では、宇奈月温泉に営巣している。（55年6月に朝日町小川温泉でも営巣確認）巣の型はツボ型、県下には早いものは3月下旬に渡来し、10月頃まで見られる。

調査の方法

(1) 調査の目的

最近におけるツバメの生息状況を明らかにし、鳥類保護行政に必要な資料にするほか、生徒(調査者）の愛鳥思想及び自然保護思想の啓蒙に資する。

(2) 調査地の選定

貴校下全域のツバメの生息地。（ただしイワツバメに限って宇奈月町立宇奈月小学校のみにて実施する。）

(3) 調査の方法

調査員は原則として小学校6年の生徒をあて、事前に居住地を中心に調査地区を定め、調査地区毎に調査員を配置して調査もれを防止するとともに、調査精度の向上に努めるものとする。

(4) 調査内容（調査のしかたについて）

ア．調査項目

• 成鳥の数

同一個体を2回読みしないために軒下、電線にとまっているもの及び巣に出入りしているもののみを数える。野外（例えば水田、河川、池など）に飛んでいるものは数えない。また、メス、オスの区別をする必要はない。

• ひなのいる巣

ひなが現在いる巣のこと。

• 抱卵中の巣

卵が現在巣の中にある巣のこと。親のツバメが巣の中にじっとしていることで判別する。

• 巣作り中の巣

現在親ツバメが巣を作るために、巣材料を運んでいる巣のこと。

• 古巣

昨年まで使用していて今年は使用されていない巣のこと。

• 巣立ちのひなの数

巣の付近にいる巣立ったひな（幼びな）の数のこと、成鳥との区別は燕尾が短いことや口角が非常に黄色いことで識別する。

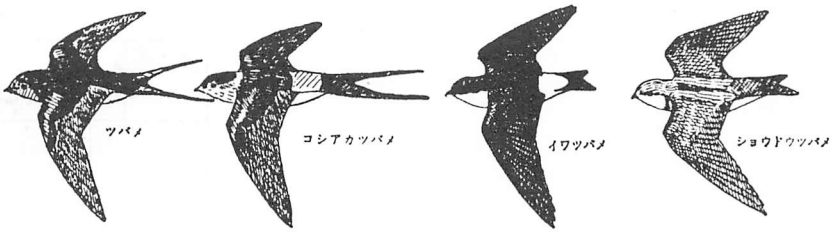
• 巣の中のひなの数

現在巣の中にいて親からえさをもらっているひなの数のこと。危険防止のため地上から観察できるおよその数でよい。はしごなど使用してのぞきこまないよう注意すること。

イ．一般的注意について

• この調査は、校下全域を網らすることを原則とする。このため事前に町または大字ごとに6年生の児童をすべての人家、公共建物等についてもれなくゆきわたるように割り当てておく。ただし、ツバメは人家の附近にだけ巣をつくるので、人里はなれた山林の小屋などは除外しておく。

• 調査は校下全域大体同時刻に一せいに行うよう



にする。このため、下校時または登校時など適当に学校で決めて行う。

• 調査する時は、事故防止と調査の正確を期するために2～3人を1グループとして1人がメモ帳に記入するよう行動する。

• グループ毎に調査結果を先生に報告し、先生はそれらを集計して決められた用紙に記入し、市町村教育（理科教育）センターに送る。

• 不測の事故（特に交通事故や落下事故）を防ぐために事前に十分指導を行うこと。

• コシアカツバメ

特殊な巣を作るので、巣の中を調べることが困難であるから、成鳥の数だけ数える。

• イワツバメ

高山性のツバメであるが、下降現象がみられ、宇奈月温泉街と小川温泉の建物に巣作りをし始めた。成鳥の数だけ数える。

(5) 調査日

調査日は、昭和○年5月1日とする。ただし日曜日や学校行事等の都合により指定日における調査が不可能な場合は、5月11日に実施することはやむを得ないものとする。

(6) 調査表の提出

各校から理科教育センターへ、昭和○年5月○日までに提出し、各センターは5月末日まで、県科学教育センターへ提出する。

(7) 調査の手引き

• 調査を指導される先生へ

調査を実施する5月10日は、ツバメの繁殖期のピークにあたるので、県内ではすべてのツバメが人家に住みついている。したがって次の手順でやるのも一つの方法である。

ア．調査の方法について

• 最初に軒下にツバメが出入りしていたり、巣のありそうな家をさがす。

• その家の玄関に入り、家人から巣の有無と利用しているのか、又は古巣なのかを聞く。

• 利用している巣があればその状態（ひなか卵か巣作り中か。）を調べる。この場合も危険防止のため、地上から観察できる範囲内で調べるか、又は家人に聞いて調べる。

イ．成鳥の数の取りまとめには注意が必要

• ツバメは1夫1婦制なので、利用している巣があれば、雄と雌がいるわけであるから、1羽しか見えはくても、成長の数は巣の数の2倍として取りまとめる。

• 例外もある。ツバメの数（性比）は雄が多いので、1つの巣の付近に3羽以上の成鳥がいることがある。この場合は観察した数をそのまま記録する。

(8) ツバメのお宿シール

上のシールは、ツバメ調査10周年に当る昭和55年に小学校6年の調査員が、ツバメの巣のある家に、ツバメに代って感謝の意味をこめて貼らしてもらったものである。これからも毎年、図案を変えて作りたいと思っている。

ツバメ生息調査の結果

（このツバメの生息調査の結果、次の10ケ年の生息数の推移、続くコシアカツバメとイワツバメの生息数の推移、100世帯当りのツバメの生息状況推移等の結果は、県下35市町村別に出ているが、今回は、富山県下35市町村の合計を掲載した。

(1)世帯数　281,847

(2)成鳥の数　31,151

(3) 100世帯当りの成鳥数　11.1

(4)巣数　41,450

a	ヒナのいる巣	3,412
b	抱卵中の巣	5,698
c	巣作り中の巣	4,244
d	a +b +c 今年の巣	13,354
e	古巣	28,096

(5)ヒナの数　7,607

a	巣立ビナの数	2,108
b	巣の中のヒナ	5,499

様式1

ツバメの生息調査表

（　）小学校

調査地				調査	ツバメ										コシアカツバメ	イワツバメ
					巣の数						離の数					
郡	市	町	村	大字	生徒数	成鳥の数	雛のいる巣	抱卵中の巣	巣作り中巣	古巣	計	巣立雛の数	巣の中の雛の数	計	成鳥の数	成鳥の数
					人	羽	巣	巣	巣	巣	巣	羽	羽	羽	羽	羽

(6)ヒナと成鳥の合計　38,758

10ケ年のツバメの生息数推移

年号	成鳥の数	巣の数
昭和46年	29,240	12,474
昭和47年	25,569	12,168
昭和48年	26,391	13,012
昭和49年	27,835	13,493
昭和50年	29,189	14,702
昭和51年	28,900	13,259
昭和52年	28,976	12,694
昭和53年	27,795	13,391
昭和54年	34,183	15,122
昭和55年	31,151	13,354

（この巣の数は、使用中のものである。）

コシアカツバメとイワツバメの生息数の推移

年	コシアカツバメの成鳥数		年		
昭和46年	952	(26)	昭和51年	1,398	(40)
昭和47年	1,289	(37)	昭和52年	1,322	(101)
昭和48年	1,177	(24)	昭和53年	1,196	(45)
昭和49年	1,468	(40)	昭和54年	1,475	(44)
昭和50年	1,364	(94)	昭和55年	1,418	(81)

（　）内の数は、宇奈月町のコシアカツバメの生息数の推移で、イワツバメについてはこの宇奈月町の55年度の生息数が、158とのみ記されている。今後この推移について調査が行われるのであろう。

100世帯当りのツバメの生息状況推移

昭和46年	11,8	昭和51年	10,7
昭和47年	10,3	昭和52年	10,5
昭和48年	10,1	昭和53年	10,0
昭和49年	10,6	昭和54年	12,3
昭和50年	10,7	昭和55年	11,1

（以上の調査から、数多くの示唆を受けることができると思うが、この調査結果の中で特に力強く思えることは、生息数の推移において、数が増加していることである。）

全国的に「亡び逝く自然」の声が高い中での結果であるだけに、10年におよぶ子ども達の活動は、その意義を十分に感じさせられるものである。また特に指導に当られる各方面の方々の自然保護へのご理解、推進力、ご高配に敬服いたしました。）

ツバメに関する言伝え

(1)ツバメが巣をかける家は火災にあわない。

(2)ツバメが低く飛ぶと雨

(3)ツバメの飛来が早ければ豊作

(4)ツバメの巣が粗末なときは豊作

(5)つばめを合わす（つばめをつける。）合算すること、物事を始末すること

(6)つばめ返し、剣術の一つ。ある状態から急激に反転すること。

(7)柳につばめ　絵柄としてとり合せのよいもの。

(8)若いつばめ　自分より年上の女性にかわいがられる男性。

ツバメに関する問答

この問答は、54年度の愛鳥週間に県下の小学校3、4年生を対象に、野鳥に関する質問を受け、自然保護課で担任教師用に解答したものの中のツバメに関する質問の一部である。

(1)問　どうしてツバメは早く飛べるのか。

問　ツバメはあまり翼を動かさないのはなぜか。

問　ツバメはどうして宙返りができるのか。

答　ツバメの体型は、スマートな流線型で空気の抵抗が少ない。翼は幅が狭くて長く、先端がとがっている。この型の翼のものは、速く飛ぶことができる。

ツバメは、はばたきの次に滑翔といってグライダーのように滑空できるので、はばたきは少ない。

ツバメは、飛びながら飛行虫を捕食するので、宙返りをしたり急旋回する必要がある。体型や翼もこれに適したものになっているが、長く2つに割れた尾も、これを広げ、左右の高さを変えることによって、宙返り、急旋回するための舵の役割りをして

様式2

ツバメの生息調査表

（　　）教育センター

調査地	ツバメ									コシアカツバメ	イワツバメ
市町村名	成鳥の数	巣の数					雛の数			成鳥の数	成鳥の数
		雛のいる巣	抱卵中の巣	製作中の巣	古巣	計	巣立雛の数	巣の中の雛	計		
	羽	巣	巣	巣	巣	巣	羽	羽	羽	羽	羽

いる。

(2)問　ツバメはどんな鳴き方をしますか。

問　鳥の鳴き声は「さえずり」と「地鳴き」の2種類がある。ツバメのさえずりは、「土食て虫食て渋ーい」と聞きなしされており、ツバメの生態をよく表現している。また地鳴きは「ピチー、ピチー」と鋭い声で鳴く。

(3)問　スズメは、よく下におりて来ますが、ツバメは、あまりおりて来ないのは食べ物が違うからですか。

問　ツバメは　何を食べますか。

問　ツバメは、飛びながらどうしてエサ（虫）を見つけるのだろう。

答　ツバメは、飛びながら飛行虫（アブ、ハエ、カメムシ、ツマグロヨコバイ、イトトンボ、トビゲラなど。）を捕食する。このため、目は焦点距離を直ちに調整できる機能を持っており、又、視力も非常によい。体型や翼も、スピードを出して飛行し、しかも急旋回などもできるようなものになっている。くちばしも、大きな口があき、飛行虫を捕え易いようになっている。

スズメは、地上や枝上で静止したものを採餌することが多い。くちばしや体型もそれに適したようになっている。

(4)問　ツバメは、どうして家の中に巣を作るのですか。

問　家の建て方が変化して、トタンやサッシの家がふえたが、スズメやツバメはどうなるのだろう。

答　鳥は、外界の状況変化に応じて、営巣の場所を変えることがある。ツバメもこの例の一つで、元来、崖地などに営巣していたものであるが、益鳥として大切にされたので、人に対する警戒心が少なくなり、逆にヘビやネコを天敵としているので、それらの近寄り難い人家の天井や軒下に営巣するようになった。鳥自体の人の存在による天敵回避効果の期待であり、現在ほとんどのツバメやスズメが人家に営巣するのも、家屋への　好性が遺伝的に組み込まれたものと考えられている。したがって集落が集団移住すると建物が残っていてもいなくなる。

人家が、アルミサッシなど整備されると、ツバメやスズメは出入りができにくく、営巣できなくなる。このため新興住宅地は、古い宅地よりもツバメやスズメは少ない。このごろでは、出入自由な車庫などに営巣しているものが増えている。

(5)問　ツバメは、どうやって巣を作るのですか。

問　ツバメの古い巣があるのに、新しい巣を作りました。なぜですか。

問　ツバメの巣作りは、何日位ですか。

答　ツバメの巣の材料は、土とワラなどの植物である。土は、水たまりや水田のあぜなど湿気のある地上から口にくわえてくる。ワラも地上で探す。土とワラなどを唾腺の分泌物でまぜてカベのように固める。

ツバメは、8～10日で巣作りする。ある観察例では、最初は泥とワラを巣台の上に無雑作に置くが、外巣作りの最盛期の4日目には、約3㎝の高さとなり（この日の巣材運搬回数は、321回。）8日目には外巣が完成し内巣に羽毛や乾いたワラを搬入(この日の運搬回数は13回。）そして内巣作り2日後に産卵を開始した。

ツバメの帰巣性は、昔からよく知られており、同じつがいが、同じ巣に帰ってくる。前年の巣を利用しない理由としては、前年のつがいの両方又は一方が死亡したか、古巣にはダニ等が発生して育すうに適しなくなったか、古くなりすぎて破損のおそれのある場合などがある。子ツバメは生まれた巣には、ほとんど戻らず、生れた巣の近くで営巣する場合が多い。

(6)問　ツバメはいつごろ卵を産むのだろうか。

問　ツバメはふつう何個位の卵をうむのですか。

問　ツバメの卵は、何日位でかえりますか。

問　ツバメは、生まれて何日位で飛べるようになるのですか。

答　渡り鳥は、一般に巣作りから育雛までの期間が短かい。ツバメは、4月から7月の間に、1回4～5個の卵をうむ。⅔ほどのものは、その間に2回産卵する。

野鳥は、普通産卵を始めて一定の数、すなわち一腹の卵をうみ終ってから抱卵する。大形の鳥は、抱卵、育雛日数が長いが、ツバメは14日～15日でふ化し、19日～22日で巣立する。

(7)問　親ツバメは、ヒナにエサを運びますが、どのくらいエサを食べると、おなかが一ぱいになるのですか。

答　あるツバメの巣（5雛）の観察では、親鳥の1日の最高給餌回数は、639回で、この場合、1雛あたり128回となったという。雛の餌としては大型であるアカトンボを給餌した場合は、30分位餌を求めなかったが、小昆虫の場合、すぐにでも餌を要求したという。

まとめ

ツバメに関する言い伝えは、各地方に共通するものもあると考えられるが、それぞれの土地にはまた特殊のものがあるのではと思う。子ども達と一諸に調べてみるのは面白い誠みであり、野鳥に親しむ一つの窓口とも考えられる。

ツバメに関する問答は、子ども達のツバメに対する関心や理解の度合いを表わしている。またこのような取り上げ方をすることによって、子どもの実態が明らかになると同時に、子ども達に、野鳥に対する興味や関心を高めることになると思う。富山県の場合、この子ども達の質問に適切に答を出されておられる点、このような行事を十年も続けられるだけに、さすがと感じ入りました。なおこのような子ども達の質問等は、日本鳥類保護連盟にお問い合わせ頂いて結構と存じます。

札幌会員の集い・開催

札幌市立東園小学校
柳沢　信雄

北海道札幌在住の柳沢信雄理事が呼びかけ人となって「第一回札幌会員の集い」が、昭和57年8月31日午後6時から開かれました。場所は、市内の北海道婦人文化会館、参加者はなんと36名、たいへん盛会だったそうです。

目的は、会員が顔みしりになり気軽に話しあえるようになること、実践校の活動を聞く機会をもつこと、街の中の学校でもできる活動を考え実践にうつす力になること、会員自身の自然認識を深めゆたかな心情を生涯教育の立場でつちかっていくことなどを、大切にしたいとのこと。

しかし、北海道では、現在会員は4団体、個人17名にすぎずさみしい状態。また、現在北海道には、愛鳥モデル校27校、野鳥愛護林校34校あり、各地で独自の活動を続けています。これらの学校の連絡組織として、また、指導メンバーとして、札幌会員の集いの役わりは大きいし、期待されます。

いずれにしても、これを第一ステップとして、大きく広がっていくことになるでしょう。

まずそのためには、会員を倍にふやすようがんばり、また年内に、第2回目の会合を開催したいと、柳沢さんははりきっております。

北海道地区以外でも同様の会をもよおす場合にはできる限りの援助、資料や講師派遣などを行います。遠慮なくくわだてて、お申し出下さい。

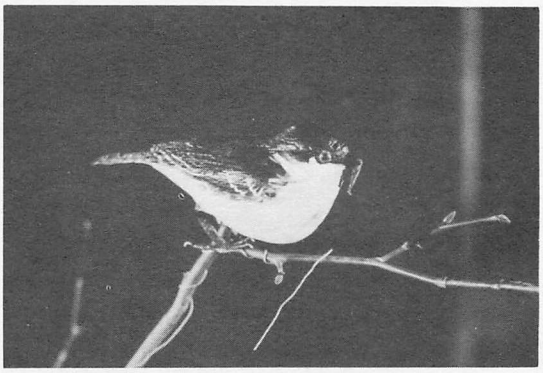
ビルタップ・ついに完成

南陽市立小滝小学校
渡辺　康輔

バードビルタップ、ついに完成しました。卒業記念製作として、6年生に作らせたものです。製作時間は、早い子で約20時間かかりました。

卒業式当日、ステージの木に止まらせ飾りました。来賓の方々も「ハク製」かと目を疑ったほどでとてもすばらしいできだと私も思います。やはり穴あけとのり付けと色付けが大変でした。足は比較的容易でしたよ。スズメにエサをくわえさしたり、キセキレイの尾を長くして切ったり、少し工夫させてみました。

注・バードビルタップは「ハクセキレイ」と「ルリビタキ」がかなえ書房から売り出し中。どちらも2500円（送料300円）で、日本鳥類保護連盟フィールドショップであつかっています。



この冬、カモをおぼえよう

不忍池自然観察会

鳥がどこにいるのかわからない内に、自然観察会が終ってしまった――ということの絶対にない上野不忍池でのカモを見る会です。双眼鏡がなくても図鑑とてらし合せ、名前をしらべられるし、こまかい行動もじっくり見ることができます。

それでもダメな人は、動物園でカゴの中の鳥をどうぞ……。

日時：昭和58年1月30日（日）午前10時集合
集合場所：国電・上野駅公園口（うぐいすだに寄り山手線の内側）へ出て文化センター前に集合
講師：上野動物園飼育係・福田道雄先生（予定）
注意：動物園に入りますので300円の入場料が必要。昼食を食べる場所もありますが、なるべく持参して下さい。予約はいりません。集合場所に来て下さい。動物園ホールにて、講師の先生の話しを予定。寒さが予想されます。防寒は充分に。

不明な点は連盟・松田までお問い合せを　お願いします。

編集後記

●いかがでしょうか？「愛鳥教育」の新しいスタイルは。とにかく内容を充実させ、読みやすくレイアウトするということから、このスタイルになりました。レイアウトは多摩美の関口尚君に協力してもらいました。また、7ページにもおよぶ報告をまとめてくれた下田先生ご苦労さまでした。また、研修会にご参加された多くの方々に厚くお礼申し上げます●現在、当会の事務局をあずかっている日本鳥類保護連盟は、土曜日はもとより日曜日も開いています。平日もかなり遅くまでおりますので、ご相談やご質問がありましたら、気軽にお立ち寄り下さい●また、連盟職員による指導や講演、ご希望の方、ご遠慮なくお申し出下さい。できる限り便宜をはかります。遠方やスケジュールの都合で派遣できない場合は、地元の専門家をご紹介しますのでご安心を●そんなわけで多忙を極めております。この間は世田谷区の八幡小学校の野鳥クラブの子供たちと多摩川へ。指導にいった私と大ちゃんの顔を見た女の子の第一声。「2人とも目が小さい！」ああ、子供は正直だ。（㎡）